

# 田牧一郎の第13回 カリフォルニア稻作便り

## 記録的な降雨となつた カリフォルニア稻作地帯です

エルニーニョによつて、約150年前からの降雨量レコードを塗り変えられてしまつた地域が北カリフォルニアに続出しました。

昨年の収穫作業が一段落した10月終わり頃からその兆候が現れ、定期的に雨が降り（昨年のような大規模な洪水にはならなかつたですが）1月の雨量は昨年を上回つていまつた。2月に入つて洪水の被害があちこちで出始め、ここウイリアムスの町も洪水被害でテレビニュースの中継が行われ、私のところにも遠くの知人から安否を気遣う電話をもらつたほどでした。

幸い私のところは水に浸かることはなかつたのですが、隣町への道路が冠水で1週間通行止めになつたり、片側通行ができるようになつても水は道路を乗り越えて勢いよく流れしており、ヒヤヒヤしながら運転することもたびたびありました。

農作物に対する被害も各地で見られます。麦畑が長期間冠水して腐つてしまつたり、果樹園の水がなかなか引かず、アーモンドやプラムなどが根ぐされやカビによる被害が心配されています。

田んぼには昨年の収穫跡の稻わら以外何もない状態ですので、直接的な被害はないのですが、冠水して大量の水が田んぼを流れており、流木や土砂を運びこんでしまいました。その片づけ作業に時間をとられます。同時に施肥設計に大きな影響がでますので、冠水した田んぼでの栽培には神経を使うことになります。

これから気温が上昇し、土が乾いてくれるのが普通なのですが、エルニーニョの影響がまだ残つてゐます。

ているようすで、計画通り作業が進むかどうか心配です。

### ●コメ作り農業後継者

前回の号で紹介しました父親の水田を借り受け、自分で稻作をやろうという隣町の新規就農予定者の話です。先日夕食と一緒にした時に話してくれたのですが、残念ながら今年はコメ作りを始めることができなくなつてしましました。

彼が経営の試算をした支払い可能な借地料は、周辺の相場と同等で特に安いことはありませんでした。しかしそれより高額の借地料を支払うという生産者が彼の父親のところに現れました。しかもその生産者が提示した額は15%も高く、全面積にすると結構な額になります。

土地を貸す方ものできるだけ高い借地料が入る方がハッピーという事になります。そこで父親は今年1年間は高い借地料を支払う生産者に土地を貸すことになりました。

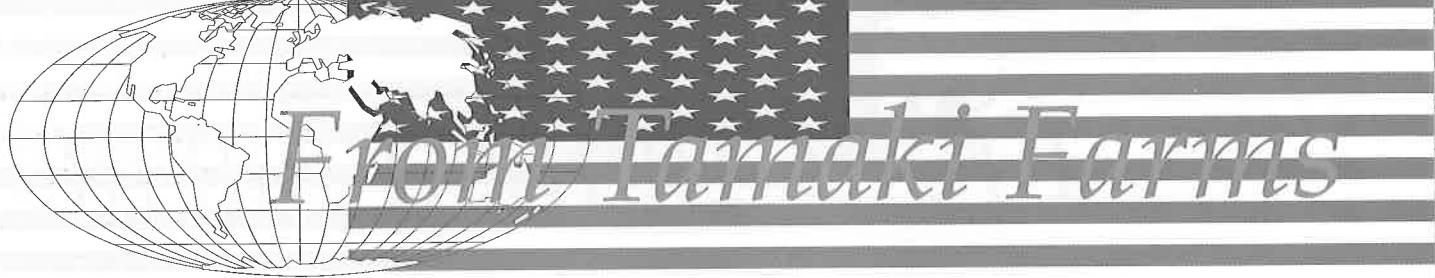
残念ですが仕方ありません。これから新たにコメ作りを始める者にとって、高額の借地料では經營を成り立たなくしてしまいます。正しい判断だと思います。彼は来年に向けて勉強しながら、再度挑戦することになりました。

農業を始めようとすると、仮に親子の間でもこのような厳しい場合もあります。

こちらの農家は、日本の農家のように生計を一緒にせず、経営者と後継者は基本的に別世帯となる大きな農家で学校を卒業後すぐに親の農場に入り、一緒に仕事をしている青年もいます。これは日本と同様に経営規模と収入の問題があり、農家に生まれた子ども達がその親の行つてゐる農業



たまさき・いちろう／1952年12月  
郡山市生まれ。中学卒業と同時に就農。自作地の他、地域の作業受託を行なつた後、89年渡米。  
カリフォルニア州で稻作（約80ha）を開始。タマキ・ファームズ・ジャパン TEL045-781-6426 FAX 045-781-6427



整備中の農作業用飛行機



見学した無農薬コメ製品加工工場

経営に入るためには、それなりの収入を確保しなければなりません。

日本と比較すれば雇用労働を多く用いての経営であり、カスタムワークなど組み合わせての経営ですが、将来の経営者を育成するには充分な規模の農場ばかりではありません。

特にコメを主に農業経営をしているところは、冬場の仕事が極端に少なくなり臨時雇用者はすべて秋のうちに解雇してしまいます。コメ・麦・果樹など複合的に大きな規模での農業経営であれば、畑や果樹園での作業と同時に販売や管理の仕事をも年間を通じて行うことになり、このような場合、若い人が農場内で給料を得ることが可能になります。

ります。

## ●日本の農業後継者

3月に日本からのお客さんを迎えるました。  
農業大学校の卒業を前にした研修旅行の方々でした。

20才～21才の男女約50人のクループで、2～3人ずつに分かれこちらの農家に宿泊し、家庭の様子や仕事の様子を直接体験する目的で行われているもので、その一組を私どもで受け入れました。

高校を卒業し、農業の専門知識を学び、卒業後は就農したり、農業関連の会社や団体に就職した

りする学生さんたちですが、実にしっかりと現実を見ていることに驚かされます。

後継者として卒業直後就農し給料がきちんともらえるのか？わが家の経営は今後も大丈夫なのか？就農以外の進路はどのようなものがあるのか？すぐにでも地域社会に属さなければならぬのか？消防団や青年団との関係をどうしようか？農業の先行きに大きな不安があることは彼らも学校の内外で知っています。そこで自分の将来と家族と地域の将来まで考えている事に私は驚きました。

非常にたくましく思うのと同時に、わずか20才の青年に地域の将来まで考えさせて良いのかと、何となく重くつらい感慨を覚えてしまいます。

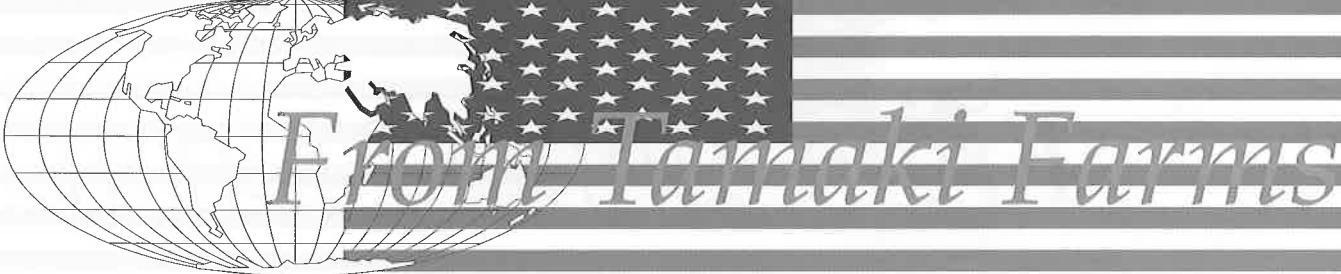
振り返って自分の20才の時はどうだったのか？今よりは後継者も多く何となく周辺にも同年代の人もおり、深刻に地域の将来を考える必要はなかったよう記憶しております。

行政や農業団体の偉い人の挨拶では「今日の日本農業の曲がり角にある時期の、君たちは貴重な農業後継者であり、今後の地域農業は諸君の双肩にかかる」との趣旨の話を数限りなく聞いた記憶があります。しかし若かりし私たちはその言葉をどこまで真剣に理解していたか疑問です。少なくとも今の後継者達より受けとめかたはゆるやかであったことは確かです。

日本の農業後継者は、すなわち地域の後継者でもある現実があります。何とかならないのでしょ

## ●アメリカの食文化

私どもの家庭は日本語が公用語で食事や生活習慣も基本は日本流ですが、半分ぐらいアメリカ文化も併せていました。従つて彼らの本来の



育種温室を見学する

体験研修目的に照らしてみるとどうなのがと少々疑問もあります。しかし依頼してくる側は「人數も多く、受け入れ農家の数も足りない場合もあり、まあ良いでしょう」とおっしゃるので引き受けております。

宿泊が始まる日は夕食会が行われます。そこは受け入れ農家と、研修者の出会いの場にもなりま

す。私たちが日本語が話せることがわかると受け入れ農の人たちから「食事は何がよいのか?」「何をしたいのか?」と通訳してほしいと頼まれます。当然の事ながら、日本からきてこちらの人と英語で会話ができるようになるまでには、時間がかかりります。

当初は、この通訳をする事を大変悩みました。

正確に訳してあげようとすると次のような会話になり、話が非常に長くなってしまい、結局、双方とも納得のいかない顔になつてしまふからです。

ホストの農家「明日の朝食はなにが良いですか?」

日本からのお客さん「何と言われても……何でも良いです」

ホストの農家「何でも良いといわれても困るな、何か嫌いなものはないのですか?」

日本からのお客さん「特別嫌いなものはないので何でも食べれると思います」

ホストの農家「何でも食べててくれるんですね、でもどうしようかな?」

日本からのお客さん「何でも」と言われても、見てみないとわからないし(むにやむにや)

このような通訳を苦労することは今までにも何度もありました。今回も全く同じ事を聞かれましたので、次のように話してお互いにすぐ納得してもらいました。

ホストの農家「明日の朝食は

何が良いですか?」  
日本からのお客さんは私の言葉で「朝食は何が良いか聞いていますが特別のリクエストはありますか?卵が嫌いだとジャガイモが食べれないとか?」

そうすると日本からのお客さんは遠慮もあり、ほとんどが「大丈夫です」と答えてくれます。

そこでホストの農家には「あなたが毎日食べているものと同じ食事をしたい、これもアメリカの食文化を学ぶ事になるし」と通訳します。

そうすると「OK」と返事があり、食事メニューの悩みは解消されます。

## ●「メ産業研修ツアーア

今年から復活させたカリフォルニア・コメ産業研修ツアーを、予定通りの3月23日から行いました。

稻作試験場やコメ業界団体・精米工場の見学など同時に生産者と話をしたり農機具の整備作業を見学しました。

日本からの参加者は1名と案内役を務めてくれた本多雅志さん(当農場コンサルタント)と私は(運転手兼通訳兼解説係)の3人でまわりました。短期間でしたが内容の濃い時間であつたと思いました。予定外の大規模な果樹の栽培農家を見学する事もあり、ご参加いただきました方には「カリiforniaのコメ産業の実態を見ることができ、日本での今後の営農にも役立つものがあつた」と大変喜んでいただき、私どもにとつても今後の計画に参考にできるところが多く、有意義なものになりました。

次回の6月にはすでに数人の申し込みがあり、6月15日から実行することを計画しています。皆様のご参加をお待ちしております。